

子宮頸がん予防啓発プロジェクト HelloSmile (ハロースマイル) ～あなたとあなたの大切な人の笑顔のために～

HelloSmileは20代、30代の女性に増え続けている
「子宮頸がん」の予防啓発プロジェクトです。
TOKYO FMが、ステーションキャンペーンとして展開している
「HUMAN CONSCIOUS～生命(いのち)を愛し、
つながる心～」の一環として、2010年に立ち上げ
多くの企業・団体・学校と共に推進しています。

後援

厚生労働省
日本医師会、日本看護協会
日本産婦人科医会、日本小児科医会、日本小児科学会
日本助産師会、日本対がん協会

特別後援

国連人口基金 (UNFPA)

活動目的

子宮頸がんの正しい情報発信・検診の受診勧奨

活動内容

- 検診の実施
- 番組・Webを通しての正しい知識と情報の発信
- ライブやイベントを通しての啓発活動
- JFN各局を通じての全国的な啓発活動
- 公的機関・他NPOと連帯しての活動
- グッズを通しての啓発
(オリジナルグッズの収益の一部は、日本対がん協会子宮頸がん基金 及び
国連人口基金に寄付されます。)

<https://www.tfm.co.jp/hellosmile/>

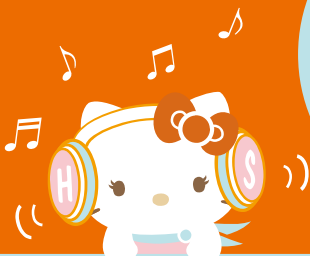


番組を通しての啓発活動

TOKYO FMでお聴き頂けます！

番組名
「HelloSmile Request」

放送時間
毎週(月)～(水)
12:45～12:50
パーソナリティ
LOVE



アプリでも聴けるよ！



協賛



協力



メディアサポーター



オフィシャルエアライン



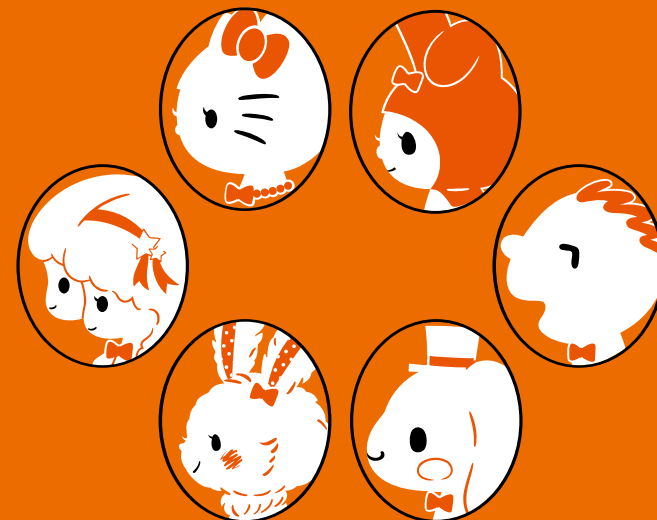
主催

ハロースマイル実行委員会 TOKYO FM

事務局



子宮頸がん予防啓発プロジェクト HelloSmile (ハロースマイル) ～あなたとあなたの大切な人の笑顔のために～



HelloSmile

後援

厚生労働省
日本医師会 日本看護協会
日本産婦人科医会
日本小児科医会 日本小児科学会
日本助産師会 日本対がん協会

特別後援

国連人口基金 (UNFPA)

監修：安達知子
総合母子保健センター愛育病院 名誉院長 (産婦人科医)
東京女子医科大学医学部 客員教授 医学博士

子宮頸がんについてのQ&A



子宮体がんと子宮頸がんの違いは何ですか？

子宮がんは2種類あります。

1. 子宮の奥、子宮体部の粘膜にできるのが → 子宮体がん
2. 子宮の出口、子宮頸部の粘膜にできるのが → 子宮頸がん

この2つは発生する場所だけでなく、原因、がん細胞の形、発生しやすい年齢なども大きく異なります。子宮頸がんは検診をすることで予防や早期発見が可能です。



子宮頸がんの原因は何ですか？

子宮頸がんの原因は、**性行為で感染するヒトパピローマウイルス（HPV）**といわれています。頸がんの初期に症状はほとんどなく、進行しますと不正性器出血や性行為の時になどに接触出血がみられます。



ヒトパピローマウイルス（HPV）とはどのようなウイルスなのでしょうか？

HPVは、現在100種類以上が発見されていますが、そのうち40種類あまりが女性の性器で病気を引き起こすことが明らかにされてきました。性器やその周辺部にイボを発生させ、がんを発生させることはほとんどない種類もありますが、一部のHPVはがんにつながる種類でハイリスクHPVと呼ばれ、15種類くらいあります。



ハイリスクHPVに感染した女性はみんな、子宮頸がんになるのでしょうか？

性交経験者のおよそ60%は少なくとも1度はHPVに感染したことがあるといわれています。ハイリスクHPVに感染しても大部分の感染は一時的なもので、免疫力により自然消失しますが、5～10%程度の割合でHPVが消失せずに持続感染することがあります。この場合は、数年から十数年の前がん病変の期間を経て、子宮頸がんになる可能性があります。感染した人のうち、がんを発症するのは0.1～0.3%といわれており、現在、年間約2,900人の方が子宮頸がんによって亡くなっています。

- ◆年間死亡者数 2,894人
※2021年人口動態統計
- ◆年間罹患患者数 34,990人（上皮内がんを含む）
※2019年全国がん登録によるがん罹患データ
国立がん研究センターがん情報サービス
- ◆がん検診受診率 43.6%（過去2年間に受診した者）
※2022年国民生活基礎調査

子宮頸がん予防啓発プロジェクト HelloSmile（ハロースマイル） ～あなたとあなたの大切な人の笑顔のために～

みんなは「子宮頸がん」って知っている？

今、20代、30代の女性では
一番多い がん なの

「自分には関係ない」って思わないで
検診に行ってほしいな

あなたの大事なからだ・・・守ってあげてね



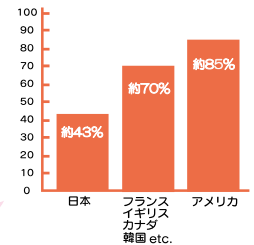
子宮頸がんについてのQ&A



日本の女性は子宮頸がん検診をきちんと受けているのでしょうか？

残念ながら、日本女性のうち約43%の人しか子宮頸がん検診を受けていません。

先進諸国は、アメリカが約85%、フランス、イギリス、カナダ、韓国などが約70%の受診率ですので、日本ではもっと受診率を上げなくてはなりません。特に日本の若い世代の受診率は極めて低く、また、世界に比較して予防ワクチン（HPVワクチン）接種率が低いと、若い女性の子宮頸がんの罹患率上昇に結びついていると考えられます。



予防するためにはどのようなことをすればよいのですか？

発がんするまでに数年から十数年ありますので、この間に子宮頸がん検診を受けていれば、早期発見、早期治療が可能となるため、定期的に受診することが大切です。併せて、思春期女子へHPVワクチン接種を行うことは大きな効果があります。



検診は痛いのですか？

ほとんど痛みはありません。子宮頸がん検診は、細胞診といって、子宮頸部をこすって細胞を採取し、顕微鏡で検査するものです。



検診っていくらぐらいかかりますか？

子宮頸がん検診を受診する方法は様々で、金額も異なります。

【自治体を実施している住民検診】

保健所や自治体が指定した医療機関で受診する必要があり、対象となる年齢、実施時期にも制限はありますが、自治体からの補助があるため、比較的安く受診することができます。費用は自治体によって異なります。

（0円のところもありますが、1,000円～2,000円程度の範囲内です。）



検診は1回受けたら、今後は検診を受けなくても大丈夫ですか？

検診の結果が「異常なし」であったとしても、原因となるHPVにすでに感染していたり、検診後に新たに感染してしまった場合、将来的に子宮頸がんが引き起こされる可能性はゼロではありません。検診で異常が発見されなかった場合でも、少なくとも2年に1度、できれば1年に1度は検診を受けることが大切です。